

学校規模適正化検討に関する公聴会 実施報告書

●実施状況

小学校の学区ごとに「学校規模適正化検討に関する公聴会」を開催して意見聴取を行いました。

対象学区	日時	場所	参加人数
阿久津小学校	令和3年12月5日(日) 10:00~11:00	阿久津小学校 多目的ルーム	6名
中央小学校	令和3年12月12日(日) 10:00~10:50	農村環境改善センター 研修室	8名
東小学校	令和3年12月19日(日) 10:00~10:45	東小学校 多目的室	4名
上高根沢小学校	令和4年1月16日(日) 10:00~11:30	上高地区コミュニティセンター 多目的ホール	39名
北小学校	令和4年1月23日(日) 10:00~10:45	仁井田地区コミュニティセンター 大集会室	7名
西小学校(延期)	令和4年5月15日(日) 10:00~11:15	宝積寺タウンセンター大会議室	5名
合 計			69名

●意見聴取結果

公聴会で聴取した意見の概要は次のとおりです。

※「学校規模・教育環境等に関する意見」と「地域・まちづくりその他の意見」の2つに分けて記載しています。

(1) 学校規模・教育環境等に関する意見

①阿久津小学校学区

- 子どもの数が減っていることや町の財政負担を考えると学校規模適正化は仕方ないと思う。個人的には、学校の統廃合については、先生方や町の財政負担が軽減され、子どもたちの教育環境がよくなるのであればよいことだと思っている。
- 学校教育の計画等の中で、どのように重点課題を解決していこうとしているのかよく分からなかった。学校規模を適正化することで、どの部分が解決できるのか、できないのか、教育ビジョンにどれくらい近づけるのかについても検討委員会で協議してほしい。また、町としてもきちんと考えてほしい。

- 東小学校を建て替えた後に、学校規模適正化の話が出てきているので、東小への吸収ありきではないのかと思う。いきあたりばったりという感じもする。
- 学校規模適正化を行った後の「評価」をどのようにしていくのか疑問に思っている。学校教育の計画等の中にP D C Aを回すとあるが、回すための指標が示されていないので、きちんとわかりやすい指標やK P Iを立ててほしい。また、仮に学校が統合した場合には、統合後の児童のケアをしっかり見ていただきたい。
- 学校規模適正化が、S D G sに貢献できる部分があるのであれば示してほしい。
- 現状 35 人基準の学級編制だが、今後は「25 人を上限とする学級編成」を検討してほしい。学級数は単学級ではなく 2 学級が望ましいと思う。
- 高根沢町の学校規模適正化の議論は遅れていて後発であり、周辺の他地域ですでに進めているところが多いため、それらの成功・失敗・デメリット等を参考にできる利点があるので、それを参考として活かして行ってほしい。また、子どもたちみんなの教育環境が平等になるように取り組んでいく必要があると思う。
- 学級編制は 35 人基準でいいと思うが、複式学級化することは負担が大きく活動に支障があるため、統廃合することは構わないので町にお任せしたいと思う。同じ学年の子どもたちが同じ水準の教育を受けられることが大事だと思う。仮に統廃合した場合には、使わなくなった学校を利用して、不登校の児童を見る場所や教室を作ってもらいたいのではないかと思う。

②中央小学校学区

- 1 学級の児童数は、20 名以上 35 名以下の間であればいいのかなと思う。
- 中央小学校の中学校学区が阿中と北中とに分かれていることは、児童数が減っている現状の中で子どもたちの負担になっていると思う。例えば、中央小の 20 名の卒業児童が阿中に 10 名、北中に 10 名という規模で進学するとなると、児童数が多かった頃と比較して同じ小学校出身の友達がとても少なく、中学校でのスタートや友達関係の構築が難しくなっていると思う。小規模の上高根沢小学校も同じ状況と思う。再編に当たってはその点についても加味して検討してほしい。
- 現状からすると、再編が妥当であるという方向性で進んでいくと思うが、「説明を尽くすこと」が一番重要な点であると思う。例えば、上高根沢小学校を再編するとなれば、上高根沢小学校に学区外から通学している児童や保護者の立場からすると、6 年間を見通して選択しているにもかかわらず、突然再編するとなったら不満が大きいと思う。今日のような説明を続けていくことで、理解や議論が深まっていくと思うのでぜひ頑張してほしい。
- 学級内の児童数はそれぞれの地域によるので一律ではないと思うが、自分の経験からすると、おおむね 30 人位はいた方がいいと思う。可能な限り多ければ多いほどいい。クラス数についても 2 クラス～3 クラスはあったほうがいいのかと思う。
- 学級内の人数はいずれにしても、クラス数については、人間関係が上手くいかなかったときにクラス替えできることは大事なことなので 2 クラス以上あったほうがいいのかと思う。

- 1学級の児童数は20人から30人くらいがいいと思う。
- 複式学級で教育を行っていくことは厳しいと思う。人数が少ないことで活動が制限されることに対してどうしていくかが問題となってくる。少人数のメリット・デメリットを町民の皆さんがどのように捉えるのか、広く意見を踏まえてほしい。
- 現在、通学が一定距離以上の児童はスクールバスを利用できていると思うが、検討に当たっては、通学の安全の観点からスクールバスの継続を念頭に入れてほしい。
- 学校にタブレットが導入されて教育環境が変化してきていることも、今後の学校の在り方を考える際には考慮しなければならないと思う。
- 学級数は2クラス位で、児童数は30人以下がありがたいと思う。

③東小学校学区

- 児童の人数が多ければ「いじめ」などの問題もあると思うが、人数が少なければ先生が一人一人を丁寧に見ることができるので、少ないことは悪くないと感じている。
- 東部地区や東小学校の児童が減っている。児童が少なくなるとスポーツなどの団体活動ができなくなるのではないかと思う。
- 自分が小学生だった時も、実は複式学級だった。今の複式学級とはだいぶ違っているとは思いますが、スポーツなどの団体活動での問題はあろうと思う。

④上高根沢小学校学区

- 人数減少に対する学校規模適正化も必要であるが、併せて「教育のあり方」についてもこの機会に検討してほしい。個性や能力を生かす教育が大切であると思うので、学習指導要領に沿った内容のほかにも、例えば、学校ごとにそれぞれ能力に合わせた専門的な教育に特化していくことも考えられると思う。町で巡回バスによる通学体制を用意したり、適切な指導者をボランティア配置したり、放課後や土曜授業を活用したりするなど、早期から専門的な個性を伸ばす一貫教育を実施することで、教育の質を高め、教育に特化した「教育の町」になれるのではないか。オンリーワンの教育体制を実現できれば人口増につながると思う。
- まず、教育のビジョンの必要であり、そのためには町としてどうありたいかという町のビジョンが先にあるべきで、そこから「こういった教育が必要である」という落とし込みをしていく必要がある。ビジョンのない検討では近視眼的な単純な議論となってしまう。
- 教育のあり方が大事であり、教育の中身を充実させるべきであると思う。高根沢町の教育水準は平均より高いと思うが、ほかにはない高根沢町独自の「特化した内容」「特徴ある教育」をやってもいいのではないか。具体的には、日常英会話のできる住民の方がたくさんいるので、それを英語教育に活用できるのではないか。また、都会の不登校児を、山村留学のように高根沢町に受け入れるのはどうか。特徴ある教育を実施することで、高根沢町に住みたいという人が他市町からやってくると思う。少しでも児童生徒数が増えるような施策や試みをしてほしい。

- 個性的な教育、魅力的な学校づくりが大切である。
- 上高小保護者の意見としては、小規模特認校制度により児童数が安定していて、他の小学校と比べて大きな減少がないので、特に急激に小規模化しているという実感は持っていなかった。この資料を見て初めて町内全体の状況を知ることができたという状況なので、他の小学校の保護者とは実感のズレがあるかもしれない。
- 個性ある人材、使える人材を育成する教育が大切で、平等な教育という考えは時代遅れだと思う。
- まず「どのような教育のあり方か」があって、それを実現するために「どういった環境・規模にするべきか」という流れで考えた方がいいと思う。国の指針や考えに合わせる必要はなく、「高根沢町では、こういうあり方のために、こういう規模で」、というような落とし込み方をしていくのがいいと思う。
- 若い頃に視察した「東京都世田谷区と群馬県川場村の交流学习」が記憶に残っている。特色ある教育を活かしていくことが大事なので、上高小での米作りなど、都会との交流学习を取り入れたらどうか。
- 保護者の意見としては、子どもが上高小で12人の学級で過ごした後に、中学校進学で2学級の規模になかなかじめず気後れしてしまったということはあったが、小規模特認校ならではの教育により、地域の中でのびのびと育てられたのはとてもよかったと思う。高根沢町や上高根沢のよさをもっとPRしていきたいと思っている。小規模化は改善しなければならないと思うが、高根沢町の中でよい教育をしていくためのよいアイデアが出てくればと思う。

⑤北小学校学区

- 1学級当たりの人数は、最低20人位は必要ではないかと思う。学級数については、2クラスほしいところだが、1クラスでもしかたないと思う。
- 北小学区と冷子川を境に隣接する花岡地区は、現在中央小学校に通学している地区ではあるが、北小学校に通学した方がいいのではないかと思う。どちらの学校にも行ける選択制か、学区の見直しをしてもいいのではないか。
- 1学級当たりの人数については、20人から25人が適当であると思う。西小の25人の学級は適当であると感じているが、阿小の35人の学級は、先生の手が回っていない様子であると聞いている。副担任を各クラスに1人ずつ付けてほしい。
- 小規模校を現在そのまま残してほしいという思いがある。昔の話になるが、東高谷地区に学校がなかったため、住民が団結して土地を提供し私財を投じて「東高谷分校」を作った歴史があり、小学校は「地域の宝」でもあると感じている。小規模校のよさを活かしつつ、デメリットをどうやって解消していくかという方向性で進めてほしい。
- 学校が小さくなりすぎると合併もしかたないと思うが、小規模であってもぎりぎりの規模になるまでは、地域に残してほしい。

⑥西小学校学区

- 望ましい学級人数については、一人一人への手厚い指導を考えると、20人前後かなと思う。望ましい学級数についても、いじめや不登校を考えると、クラス替えのできる2学級以上が望ましいと思う。
- 教育環境の充実に向けて、発達障害・グレーゾーンの子どもへの対応・サポートに取り組んでほしい。退職教員を資源として活用してほしい。
- 望ましい学級人数については30人まで、学級数は2～3学級が望ましいと思う。
- 上高根沢小学校で授業を手伝った経験から話したいが、全部で6人という学級もあって、きめ細かく見られる反面、ちょっと少ないと感じた。また、学区外からの児童はスクールバス・スクールタクシーで通学しているが、歩いて通学している他校児童と比べて守られ過ぎていると感じた。
- 子どもの数の減少に比例して高齢者の数が増えていく状況からすると、地域で子どもを育てる観点から、様々な経験知識を持った高齢者に教育の一端を担っていただくのがいいのではないかと考えている。そうすると、文化活動を行っている高齢者と小規模校が一緒に活動・交流する複合施設なども考えられると思う。地域で子どもを育てる意識が醸成され、先生の負担軽減や、高齢者の生きがいにもつながると思う。
- 望ましい学級人数、学級数については、アンケート集計まとめのおりでもいいと思うが、それぞれの学校がそれぞれの規模等に応じて「学級の上限人数」を決めればいいのではないかと考える。
- 望ましい学級人数、学級数については、それぞれの学校の状況で決めればいいと思う。

(2) 地域・まちづくりその他の意見

①阿久津小学校学区

- 予定されているアンケートについては他市町のアンケートを参考に幅広い意見を聴いてほしい。
- 計画に記載のQUテストの結果の中で、子どもたちが「学校が楽しいと思える割合」が5～6割と低かった。私の会社でも、ストレスチェックや「会社の満足度」を確認しているが、通常は約8割が平均であると聞いているので、適切ではないのではないかと感じた。
- 上高根沢小学校では、英語教育に力を入れているが、町全体に広げてやった方がいいと思う。
- 他県や都内では、授業参観をオンラインで実施しているところもあるので検討してほしい。
- 学校から大量の紙文書・プリントが来るので、脱炭素やSDGsに貢献できるよう学校のペーパーレス化を進めてほしい。
- 公聴会等を実施する際の周知の仕方をもっと工夫してほしい。

②中央小学校学区

- 公聴会の周知については、学校を通じた保護者への周知も考えてほしい。

③東小学校学区

- 東部地区は全く小売店舗がない。市街化調整区域を撤廃して、家が建つようにしてほしい。
- さくら市は小規模開発ができるが高根沢町は開発ができないしぼりがある。少子化の進展を和らげる方法があればと思うが、農業を担う若者が少ないなどの問題もあり、手詰まりの状況だと思う。

④上高根沢小学校学区

- 小規模校の維持に経費がかかるという観点からは、税金の使い道として、健康なのか教育なのか、トータルで何を優先すべきかの優先順位を定めてから検討した方が建設的であると思う。
- 地域経営計画 2016 が策定された時点で児童生徒の減少は把握できていたと思うし、「高根沢町公共施設等総合管理計画」が策定され、すでに6～7年前には、この問題は顕在化していたと思う。今さら議論を始めるのはスピード感に欠ける対応であり、早くから議論を始めていればこんなにも選択肢が狭まらずに済んだのではないかと思う。
- 宇都宮市からも人が来るような、思いきった施策や決断が必要と思う。学校近辺に新たな住宅が建てられるように市街化調整区域の縛りをなくしてほしい。上高小は自然豊かな環境で、英語教育も充実しており、すでに大きな魅力がある。LRT がすぐそこまで来てアクセスもよい。教育だけでなく全体としての取組をしていかないと、地域の発展につながっていかない。
- 教育だけの問題ではないと思う。昭和33年の町制施行後、旧阿久津町は発展したが、旧北高根沢村は人が減るばかりで発展していない。これは市街化調整区域の問題がすべての原因ではないかと思う。地域の発展のために、思いきった判断をする時期に来ている。市街化調整区域の見直しを是非お願いしたい。
- 以前から少子化が問題であったのに放置していたことは行政と教育のどちらにも責任がある。机上の空論ではなく有言実行で、失敗してもいいから一丸となってやってみてほしい。
- 人口減少をいかに食い止めるかが重要だと思う。地域経営計画 2016 においても、各小学校地区ごとの“ミニ市街化区域”のような「地区計画」を掲げていたし、いろいろな方法があると思う。家を建てられない制限を何とか撤廃できないか、だめなものでもやっていくという姿勢で、町が一丸となって人口対策に取り組んでほしい。

⑤北小学校学区

- 学校のほか、地域のコミュニティを構成するのは、農協や郵便局、お寺や神社であり、それらを守っていかないと生活の拠り所がなくなってしまう。

- 現在の北小学校などが統合された当時、上高根沢小学校は統合対象にならなかった。政治的都合や判断での統合は止めてほしいと思っている。
- 例えば、子どもたちは、統廃合で離れた遠くの学校に行くことになる、大人になってから家を建てる際などに、生まれた地域よりも学校近くの地域に愛着を持つようになるという話を聞いた。小規模であってもいいから、学校はそれぞれの地域に残してほしいと思う。
- 子どもたちが、地域で安心して家庭を持つことができるよう、仕事や住宅を供給して生活を安定させるのは町の役目であり、企業誘致でも何でもやってみてほしい。

⑥西小学校学区

- 先日、日光明峰高校が存続の危機にあるという報道を読んだ。高根沢高校についても、同様の懸念があるので、早いうちから、高根沢町が県に様々な提案をするなどして働きかけ、存続するための手段を講じていかなければならないと思う。例えば、白楊高校から農業科を持ってくるとか、早めに何か手を打ってほしい。
- 台地の上（住宅地）と、台地の下（農業地域）で人数が大きく違って、台地の上が多いのは造成の効果だと思う。造成をしないと人は来ないので、どこを造成していくのかという問題だと思う。また、高根沢町は、子育て世帯に対する人口増加策の訴求が非常に下手だと思う。造成のきっかけとなったホンダ勤務の住民が多いのでこれからも大丈夫だという考えかもしれないが、芳賀町や宇都宮市（ゆいの杜）に人が流れていっている現状がある。まわりにも高根沢町に住みたいという人はあまりいない。
- 町として「4万人構想」があったと思うが、人口は増えていない。その切り口も必要で、市街化調整区域のしびりが強くて家が建てられない状況があるので、例えば学校の周りは家が建てられるようにしようとか、そういう考えがないと子どもの数は増えていかないと思う。